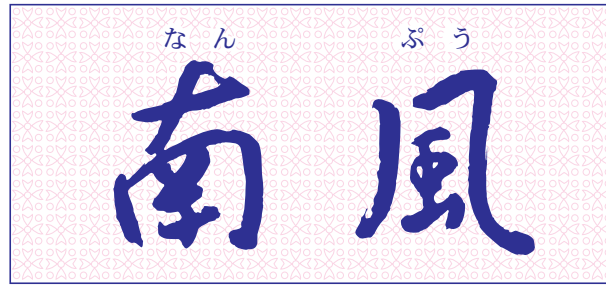


令和5年度
春季号



発行
公益財団法人
沖縄県交通遺児育成会

〒900-0027
沖縄県那覇市山下町18番26号
山下市街地住宅2階B-211号室
電話 (098) 987-0743
FAX (098) 987-0744
<http://okiko-iku.com>

延べ7253人に奨学・育成金 これまでの支援に感謝

明けましておめでと
うございます。
まずは、元日に発生し
た能登半島地震にて被害
に遭われた皆様には謹ん
でお見舞い申し上げます。
旧年中は急激な円安や
物価高騰による不安、海
外情勢問題等、変化の多
い一年でした。一方でコ
ロナ禍が少しずつ落ち着
き、県内でも以前のよ
うな賑やかさや活気が
戻ってきたように感じら
れます。皆様にとって

2024年が明るい未来
で心豊かな一年になりま
すよう祈念申し上げます。
さて、公益財団法人沖
縄県交通遺児育成会は
1971年7月に「沖縄
交通遺児を励ます会」発
足により活動がスタート
しました。1979年3
月に同会を発展解消し
「財団法人沖縄県交通遺
児育成会」を設立、
2011年7月に
公益財団法人へ移
行しました。交通
遺児らへの奨学・
育成金の給付は財
団法人設立後の
1980年からで
給付事業は今年で
44年目になります。
おかげさまで
2023年度まで
に延べ7253人
の子どもたちへ奨
学・育成金を給
付することがで
きました。激励
金、見舞金等を含
めた給付金総額は
4億7870万円
余となります。今
年度に關しまして

は奨学・育成金を39人へ
給付、その他対象者へは
激励金、見舞金、リー
ダー育成金も給付いたし
ました。
県内外の個人、企業、
団体からの寄付金もこれ
までの総額が10億円を超
えるなど、多くの方々か
らのご理解をいただきな
がら育成会事業が継続さ
れており、これらの貴重
な浄財は大切な家族が突
然の交通事故に遭いなが
らも、力強く歩む子ども
たちの健全育成事業、給
付支援事業として役立て
ております。

交通遺児を救済する事
業を推進してきた先達に
敬意を表すとともに、長
年にわたり支援していた
だきました県民に深く感
謝申し上げます。
理事長として今後とも
若い人たちが将来を切り
開いていく上での支えと
なれるよう取り組んでま
いりますことをお誓い申
し上げ、新年のあいさつ
といたします。

沖縄県交通遺児育成会
理事長 船越龍二



たばる内科胃腸科 金城幸博先生「サクラの季節」…那覇市医師会チャリティー写真展出品作品より

「交通遺児の健やかな成長を見守って」



(公財) 沖縄県交通遺児育成会
船越龍二 理事長

1959年生 82年沖縄テレビ放送入社。報道制作局長を経て21年に社長。22年に交通遺児育成会理事就任、23年7月より現職

1971年、前身の「沖縄交通遺児を励ます会」として発足してから52年目となる(公財)沖縄県交通遺児育成会と、1969年に設立し当会同様に交通遺児への多様な支援を行う(公財)交通遺児育英会のトップ対談が、2023年11月9日(木)午後1時より、琉球新報社9階応接室で行われ、今後の抱負や展望について語り合いました。



(公財) 交通遺児育英会
石橋健一 会長

1942年生 北大卒業後、日新製鋼(現日本製鉄)を経て96年交通遺児育英会に就任。事務局長、専務理事、理事長を経て23年6月より現職

対談の中で石橋会長は交通遺児育英会の事業概要を述べ、幅広く行われている活動内容を説明しました。船越理事長も沖縄県交通遺児育成会の活動について状況と課題を述べました。交通事故ゼロ社会を願う思いは同じで、交通遺児支援を行う両会の存在を知ってもらうために、これからお互いに情報交換を行いながら取り組んでいくことを確認しました。

また、現在支援金を給付されている学生からは、支援のおかげで夢を諦めずに頑張っている感謝のことばが体験談とともに語られました。



対談の様子

詳細は2023年12月20日付琉球新報で掲載、または当会ホームページにてご覧になれます

(公財)交通遺児育英会へのお問い合わせはこちらから



対談後：琉球新報社7階テラス

令和4年中の飲酒運転検挙率は全国平均の約4.6倍、飲酒絡みの事故構成率は全国平均の約2.5倍で2年連続全国ワースト1になるなど、改めて今大会で「飲酒運転をしないさせない許さない」環境づくりを促進するための意識の高揚を図りました。

また、一般社団法人おきなわASK代表の大田房子さんが、アルコール依存症の夫が起こした飲酒運転による交通事故の悲劇を基調講演。パネルディスカッションでは、飲酒運転防止のためのアルコールの基礎知識について話しました。その他学識経験者等の登壇者による飲酒運転根絶や、歩行者事故防止など交通安全に役立ち、かつ適切な方法を専門的な意見として報告されました。また東京オリンピック金メダリストらによる空手演武や小椋高校の書道部による書道パフォーマンスが会場を盛り上げました。

飲酒運転根絶に向けた県民大会(主催：県、県議会、県警と内閣府が主催する交通安全フォーラムが令和5年12月20日、浦添市アイム・ユニバースでこのホールで同時開催されました。各種団体、企業、ボランティアら約600名が参加する中、冒頭、交通事故犠牲者への黙とうを捧げたあと、優良事業所の認定表彰が交付されました。

「日本一安全で安心な交通社会の実現に向けて」
飲酒運転及び歩行者事故のない美ら島沖縄へ

飲酒運転根絶県民大会 同時開催
令和5年度交通安全フォーラム



ハッピードリームサーカス&カヌチャイルミネーションへ招待!! 第30回クリスマス激励会開催

令和5年度のクリスマス激励会は「ハッピードリームサーカス沖縄公演」と「スターダストファンタジア2023-2024」へ全世界帯をご招待しました。

沖縄ではなかなか見ることのできないサーカスは初めて見る子どもたちも多く、世界最高レベルのスーパーパフォーマンスに大興奮必至!! また、沖縄の冬を彩る一大イルミネーションで幻想的な世界を存分に堪能します!!

サーカス招待券をご寄贈いただいた全日本港湾労働組合沖縄地方本部様と琉球物流様、イルミネーション招待券とファンタジアホログラスをご寄贈いただいたカヌチャベイリゾート様、とても素敵なクリスマスプレゼントをありがとうございました!!

中学卒業生を激励

「チャレンジ精神を忘れずに」とメッセージ贈る

卒業を目前に控えた中学生を激励するため、2月1日に仲田事務局長が在籍校を訪問しました。校長先生、保護者立ち合いのもと「立派にご卒業を迎えられたことを誇りに思います。今後もチャレンジ精神を忘れず、何事にも前向きに取り組んでください」と当会理事長からの激励のメッセージを届けました。

激励を受けた生徒は「中学校では友人もたくさんできて楽しい学校生活でした。受験も頑張ります。高校では部活にも挑戦し頑張っていきたいです」と抱負が語られました。



西原東中学校

～感謝を込めて～

日頃より、いつもお世話になり感謝しております。貴会より援助をいただいてから5年になり、息子は高校3年生になりました。貴会の援助のおかげで、卒業後は進学を考えているようです。今後もよろしくをお願いします。
(那覇市在住のご家族)

いつもお世話になっております。長女も社会人になり次女も就職活動を頑張っています。三女は高校3年生、下の子は中学生になります。おかげさまで皆大きくなりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。
(那覇市在住のご家族)

いつも大変お世話になっております。娘も3月で卒業を迎え、4月からは証券会社の就職内定もいただいて、卒論に追われているようです。これまで2つ上の兄を含め本当にいろいろと長きにわたるご支援をいただきありがとうございました。本当に感謝でいっぱいです。毎日、お忙しいとは思いますが、どうぞお身体にはお気をつけください。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。
(浦添市在住のご家族)



れす。
遺児等育成基金へ寄付さ
は交通遺児育成会と交通
ました。寄せられた募金
ちに募金協力を呼びかけ
願いも込めて街行く人た
の
けられており、「交通遺
児の生まれない社会」の
を合言葉に40年以上も続
は「交通遺児に愛の手を」
た。同活動

沖縄バスのみなさんが街頭で募金を呼びかけ

1月12日、
沖縄バス(新
川幹雄社長)
のバスガイド
や職員などが
那覇市のパ
レットもじ
前広場で交通
遺児への支援
を呼び掛ける
街頭募金活動
を行いました
を。同活動

初 寄 付

Enjoy Englishサークル バザーの収益金を寄付

放送大学沖縄学習センターで活動するEnjoy Englishサークルは、11月に琉球大学内で行われた交流文化祭ふれあいバザーによる売上金と会員から寄せられた募金3万1000円を寄付した。12月4日に育成会事務局

を訪れた名嘉真英明代表（写真左）は「子どもたちのためにお使いください」と寄付金を託した。



サーカス鑑賞楽しんで 全港と琉球物流がチケット寄贈

県内民間港で働く職員で組織する全日本港湾労働組合沖縄地方本部（山口順市執行委員長）は12月20日、ハッピードリームサーカスの招待券200枚を寄贈した。同労組の諸見力書記長（写真中央）と知念桂一郎執行委員（同左）が育成会事務局を訪れ「県内でサーカスを見る機会は少ないので、是非楽しんでほしい」と話した。また、県内で経験豊富な物流業者である琉球物流（金城樹社長）からも招待券70枚が寄贈され

た。同サーカスはイースト沖縄豊崎大テント特設会場で3月3日まで開催されている。



未来ある子どもたちに 還暦同期会が21万円余を寄付

11月に開催された県立首里高等学校第37期還暦同期会より21万675円が贈られた。12月13日、那覇市の曙クリニック

中央産業が30万円 創業50周年を記念して

中央産業（崎山博之社長＝写真中央）は10月10日、創業50周年を記念して30万円を寄付した。沖縄テレビを訪れた崎山社長と幸地篤志常務（同左）は「50周年を迎え地域社会貢献で恩返しをする中、創業から損害保険業務を行う立場として交通遺児も応援していきたい」と話した。



で贈呈式を行い、代表幹事を務めた同クリニックの玉井修院長（写真）は「未来ある子どもたちのために役立ててほしい」と寄付金が託された。寄付金は会余剰金のほか、幹事会寄付金をあわせたもの。

留学制度で国際的視野を広げて 古堅さんが2万円

浦添市の古堅政尚さん（写真左）が11月10日育成会事務局を訪れ「育成会の機関紙で海外留学の募集を見た。若い世代には国際的視野をどんどん広げてもらいたい新たな世界観を開いてほしい」と2万円を



寄付した。

継 続 団 体

レンタカーの目でチャリティーゴルフ レンタカー協会が15万円余

県レンタカー協会（白石武博会長＝写真中央）は第22回レンタカーの日チャリティーゴルフ大会を10月に開催し、参加会員から寄せられた15万6000円を寄付した。10月30日、沖縄テレビを與古田思好専務理事（同左）と訪れた白石会長



は「会員同士で交通意識を高めている。業務を通して交通事故ゼロを目指したい」と話した。さらに会員2名からの個人寄付も寄せられた。

**波之上自動車学校が5万円を寄付
合同試乗会収益金の一部**

波之上自動車学校（高田聡社長）は、9月に同校で開かれた第2回インポートバイク合同試乗会の収益金の一部5万円を寄付した。11月8日、育成会事務局を訪れた神山悦志総務係長（写真左）は「今後も指定自動車教習所として、



交通安全教育の推進、啓発、意識向上に努めたい」と話した。

**子どもたちの新しい挑戦のために
石油商業組合青年部会が10万円**

県石油商業組合青年部会（嘉手川彦会長）写真前列右から2人目）は、10月に実施した「第16回チャリティー洗車キャンペーン」の売上金の一部10万円を寄付した。11月10日、八重瀬町の県石油会館で行われた贈呈式で嘉手川会長は「加盟給油所116か所のお客様に協力いただいた。



子どもたちには県外派遣に参加するなど新しいことにも挑戦してほしい」と話した。

**好きなことにはチャレンジを
安里眼科が50万円**

医療法人水晶会安里眼科（安里良盛会長）は11月30日、50万円を寄付した。安里眼科おもろまち駅前で贈呈式が行

われ、安里良理事長（写真右）より「好きなことがあれば諦めずにどんどんチャレンジしてほしい」とのメッセージとともに寄付金が託された。

**トラックの目でチャリティーゴルフ
トラック協会が43万円余**

県トラック協会（新城英一会長）写真右から3人目）は、9月に「トラックの日」の1環で開催したチャリティーゴルフ大会の参加会員から寄せられた43万2094円を、11月20日に那覇市のトラック研修会館で寄付した。新城会長は「協会のイベントや絵画コンクール等を通して子どもたちにも交通安全の大切さを教えながら、交通事故減少につな

**有益につかってほしいと
沖縄しまたて協会が30万円**

県内の国土利用、整備、保全等に関する事業展開をしている沖縄しまたて協会（木下誠也理事長）は12月6日、30万円を寄付した。沖縄テレビで行われた贈呈式で金城博



がる啓蒙活動に取り組んでいく」と話した。



**船上チャリティーライブ開催
よいどれかぐや姫が14万円余**

那覇市のフォークソングバーよいどれかぐや姫（與那嶺暁代表）は、11月3日に船上チャリティーライブを主催（蓮グループ協賛（吉川浩樹代表））し、会場内で呼びかけ集まった募金と参加者2名からの浄財をあわせて14万2065円を12月7日に寄付した。育成会事務局を訪れた與那嶺代表らは「多くの参加者に協力してもらった。継続的に実施していきたい」と寄付金を託した。



専務理事（写真左）は「子どもたちのために有益に使ってください」と話した。

**子どもたちへの支援を継続
農林水産団体共済会が3万**

援助を必要とする県内の子どもたちへの支援や地域社会



福祉の向上を目的とした「地域住民福祉事業」を行っている県農林水産団体共済会（福里秀彦会長）より、11月15日に3万円が贈られた。

地域密着プロジェクトを実施
マルシン3店舗で7万円余

丸真産業（眞嗣正社長）の系列パチンコ店マルシンの3店舗は、12月12日に7万2000円を寄付した。同店舗では、景品をポイントに交換し、応援したい団体へ投票

する取り組み「結プロジェクト」を実施しており、寄付金はその投票により応じたもの。育成会事務局を訪れた森田潤営業部次長（写真左）は「コロナ禍でしばらく中断していたが、お客様参加型のプロジェクトとして継続しお役に立ちたい」と話した。

交通事故ゼロを目指し
自動車販売協会が30万

県自動車販売協会（野原朝昌会長）は12月18日、30万円を寄付した。屋比久隆専務理事（同左）らと沖縄テレビを訪れた野原会長は「自動車を扱うものとして、メーカー側と協力しながら交通事故ゼロを目指し取り組んでいきたい」と話した。

子どもたちの笑顔がみたい
個人タクシー組合が10万円

県個人タクシー事業協同組合（義永勉理事長）は12月21日、10万円を贈られた。豊見城市の組合事務所で行われた贈呈式で義永理事長は「子どもたちの笑顔が見たいからこれからも継続していきたい」と話した。

専心池坊琉球支部が5万円
お役にたてればうれしい

専心池坊琉球支部（翁長光泉支部長）は12月22日、5万円を寄付した。育成会事務局を訪れた翁長支部長らは「微力ながらも子どもたちのお役に立てればうれしい」と話した。同支部設立記念日の12月12日に合わせて毎年寄付している。



交通事故と
交通遺児がなくなるまで
沖縄apilio会が12万円余

沖縄apilio会（濱元清会長）は12月22日、12万4820円を寄付した。寄付金は、会員加盟店会費の一部と各店舗へ設置しているボックス募金。沖縄出光の田中克拓社長（同左）らと育成会事務局を訪れた濱元会長は「交通事故と交通遺児がなくなることを願うこれからも活動していく」と話した。

卸商業団地組合が30万円
設立40周年で新年会開催

県卸商業団地協同組合（平良秀樹理事長）は1月10日、浦添市西洲の同組合会館で新年会を開き、この中で当会の他、浦添市社会福祉協議会、那覇市社会福祉協議会の計3団体にそれぞれ30万円を贈呈した。昨年12月21日に組合設立40周年を迎えたことも重なり、新年会も約4年ぶりに開催した。



県宅地建物取引業協会 福祉基金で7万円寄付

県宅地建物取引業協会（渡久地政彦会長＝写真左）の新年賀詞交歓会が1月12日に那覇市内のホテルで行われ、その席上で当会へ7万円を寄付した。その他、沖縄県社会福祉協議会とNPO法人メツシユサポートへも福祉基金が贈られた。



JU沖縄が25万円 会員寄付やオークション募金

県中古自動車販売協会（仲田裕治会長＝写真右）は交通安全啓発の一環としてチャリティキャンペーンを実施し、会員からの寄付金やオークション募金などを合わせた25万円を寄付した。12月22日にJU沖縄会館で開かれた贈呈式で仲田会長は「子どもたち



の支援は継続していきたい」と寄付金を託した。

タクシー乗務員の西協力会 2万4000円を寄付

タクシー乗務員の親睦団体、西協力会（新垣敏克会長）は月例の会合で会員から募つ

た浄財を毎年未寄付している。「少額ですが子どもたちのために役立ててください」とのメッセージが添えられて、12月20日に2万4000円が寄せられた。

社人になっても忘れずにほしい 丸徳ガスが13万円余

県内でLPガス供給をてがける丸徳ガス産業（上原貴行社長）が1月17日、従業員から募つた一年間の募金13万3812円を寄付した。育成会事務局を訪れた上原信行会長（写真右）と上江田亜由美さん（同左）は「支援を活用し学業に励み、社人になつても支えてくれた機関があつたことを忘れずにほしい」と話した。



システム導入で会員募集 沖縄マツダが24万円余

沖縄マツダ販売（宮里豊社長＝写真中央）は、「クラブマツダ」への新規加入者1件につき100円を会社が寄付する取り組みを実施。1月25日、宮里社長と宮良康史新中保険営業部長（同左）が沖縄テレビを訪れ「これからも安心・安全な車づくりに努めていきたい」と話し、クラブマツダ加入寄付金として24万7200円、各店舗設置の募金ボックスに寄せられた5万2823円と社員1名からの募金を寄付した。



海外留学への挑戦を応援 那覇市の玉那覇さんが10万円寄付

那覇市の玉那覇通男さんが当会の「海外留学支援プログラム

ム」について「とても素晴らしい制度だと思う。挑戦される方を応援します!! Boys and girls be ambitious us!」と10万円を寄付した。

ボックスデビュー

沖縄テレビ放送(株)・(特養)北斗園・ (株)拓琉金属豊崎工場

募金で子どもたちを支援していきたいと、沖縄テレビ放送(株)が令和5年8月に、(特養)北斗園と(株)拓琉金属豊崎工場は同年11月から交通遺児育成会募金ボックスを設置しました。皆様のご理解とご協力に感謝いたします。



沖縄テレビ受付に設置された募金ボックス

新規賛助会員のご紹介!!

『大栄空輸株式会社』

～子どもたちの力になりたい～

「安全」「迅速」「確実」をモットーに、一般貨物・宅配から切花・野菜・生鮮魚介類の市場配送など、お客様のニーズに合わせ幅広いサービスを展開している同社が「微力ながらも子どもたちの力になりたい」と、令和5年12月に賛助会員に加入しました。末永いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

寄付協力者ご芳名

令和5 (2023) 年10月1日～令和6 (2024) 年1月31日

団体寄附

Table with 3 columns: Date, Donor Name, Amount. Includes entries for October, November, and December 2023.

個人寄附

Table with 3 columns: Date, Donor Name, Amount. Includes entries for October, November, and December 2023.

Table with 3 columns: Donor Name, Amount. Includes entries for various banks and schools.

学校寄附

Table with 3 columns: School Name, Amount. Includes entries for international and local schools.

賛助員寄附

Table with 3 columns: Donor Name, Amount. Includes entries for individuals like Hiraiwa Haruko.

受贈品寄付

Table with 3 columns: Donor Name, Amount. Includes entries for gift certificates and other items.

★寄附金・賛助会費等の振込口座(随時受付中)★

☆振込み方法：右記金融機関窓口指定振込用紙使用

～募金箱管理者様へ～

募金箱の設置管理、お振込み手続き等、日々のご理解とご協力に感謝いたします。大量の硬貨をお振込みする際に生じる手数料につきましては、管理者様のご負担がないよう募金箱内から差し引きお手続きいただくことも可能でございます。大変心苦しい限りでございますが、何卒諸事情をご勘案のうえ、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様からの温かなご支援に事務局一同深く感謝申し上げます。



Table with 3 columns: 金融機関名, 支店名, 口座番号. Lists bank names, branches, and account numbers.

※その他の振込先は当会 HP をご覧ください

口座名義人： 公益財団法人 沖縄県交通遺児育成会

県民の支援の輪 善意ありがとうございました